

DX 推進計画

2026 年 4 月 1 日

今井電機株式会社

代表取締役 今井善孝

(1) 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定

デジタル技術の進化に伴いデジタル化のハードルは下がり中小企業でも活用しやすい環境にあり、この機会を逃すことで競争力低下を招くことにつながります。

私達は DX を進めるうえでデジタル化やデータ活用だけでなく、持続可能な環境を維持するために低損失変圧器の製造・販売とデジタル技術を融合させ、CO2 排出量を管理・削減に取り組み、環境と調和するものづくりを通じて、地球にやさしい選択を届けていきます。

(2) 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策(戦略)の決定

次の方策を実施することでデータ活用を図り持続可能なものづくりを推進します。

1. CO2 排出量の公表・削減により競争力強化

サステナビリティ開示が義務化されていく中で、CO2 排出量の公表は求められます。組織や製品毎の CO2 排出量の管理・算出するためにデジタル技術を使い、仕組みを構築、得られたデータの活用を行い、顧客に情報提供や CO2 排出量削減に向けて取り組みを実施します。

2. 製造業務カイゼンによる生産性向上

工程管理や材料管理業務をデジタル化し、属人化を無くすと共に、これらの業務に要する時間を短縮させ製造能力を向上させます。デジタル化により蓄積されたデータを活用し更なるカイゼンを計り、生産効率向上を目指します。

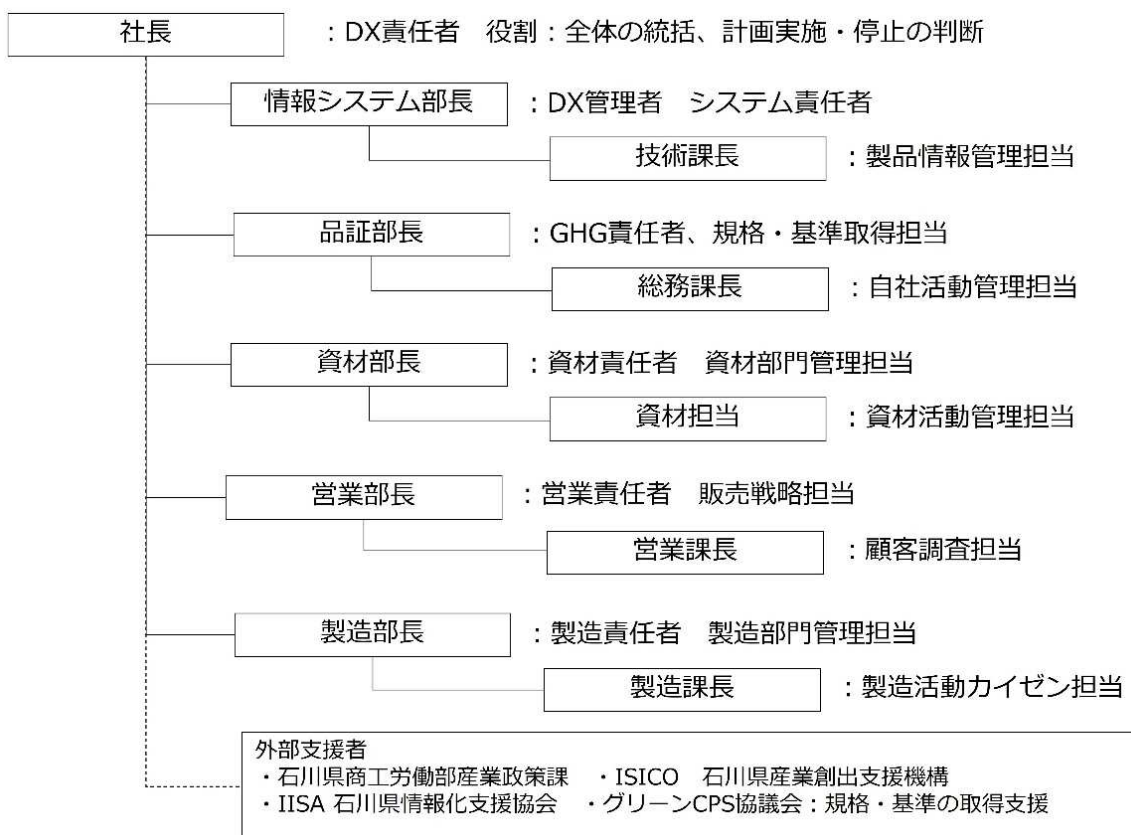
3. 間接業務カイゼンによる生産性向上

AI-OCR 技術を活用しデジタル化された文書を読み取り入力作業の自動化を行います。入力作業の自動化を実現するため、ペーパーレス化を行い、情報のデジタル化、自動処理に取り組みます。

取引先とデータでのやり取りを行うことでお互いにデジタル化やペーパーレス化の恩恵を受け、生産性向上、環境にやさしい経営を共に築くことを目指します。

① 戦略を効果的に進めるための体制の提示

DX 推進計画の実施体制



人材育成

情報システム部門の専任者を設けると共に、社員全体のレベルアップを目指します。

- ・CO2 排出量算出担当の育成
- ・AI-OCR 設定担当の育成
- ・新たなデジタル技術導入による教育
- ・セキュリティ教育実施により全社員のリテラシー向上
- ・社外セミナーの参加推進
- ・資格取得支援

② 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策の提示

- ・基幹システムの更新を行い、社内業務データの連携を行います
- ・工程管理システムを導入し、製造負荷の見える化を行い、最適な工程管理を行います
- ・材料管理システムを導入し、資材管理効率を向上、適切な在庫管理を行います
- ・得られたデータを分析し、経営判断やカイゼンに使用します

(3) 戦略の達成状況に係る指標の決定

DX 戦略の達成状況を表すため、以下の KPI を利用します。

- ・サステナビリティ開示による顧客動向調査
- ・CO2 排出量公表製品数
- ・デジタル化による業務改善時間
- ・労働生産性

(4) 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信

これまで社内無線ネットワーク整備、全社員にパソコン配布、サーバーのクラウド化など、デジタル技術を活用するための基盤を整備してきました。また、環境マネジメントシステム、エコステージを導入しカイゼン活動を行ってきました。

今後は DX と GX の融合を図り、環境と調和するモノづくりを通じて、地球にやさしい選択を届けること事業価値として、社会貢献を行うことを目指します。

(5) 実務執行総括責任者が主導的な役割を果たすことによる、事業者が利用する情報処理システムにおける課題の把握

DX 推進指標自己診断を行い、現状とのギャップを確認し、課題解決に向けてカイゼンを行います。

(6) サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施

- ・毎年情報セキュリティ自社診断を行い、弱点を確認し対策を実施します
- ・毎年専門家を招いて全社員対象にセキュリティ教育を実施します
- ・SECURITY ACTION 制度に基づき、二つ星の宣言をします